

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	15人	算数	15人	理科	15人
第5学年	国語	12人	算数	12人	理科	12人

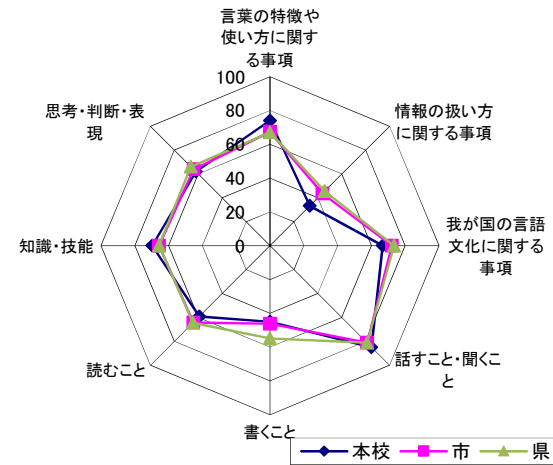
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.1	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	33.3	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	66.7	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	85.0	81.2	81.2
	書くこと	45.0	46.2	54.9
	読むこと	59.2	64.3	64.5
観点	知識・技能	69.7	65.7	65.7
	思考・判断・表現	62.1	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

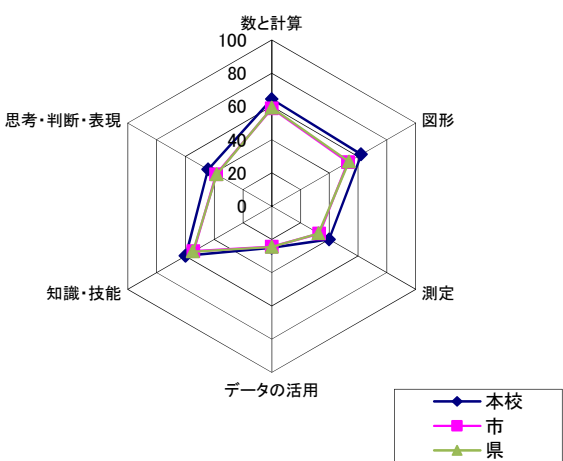
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○漢字の読みは、8割の児童ができており、市の平均値より高い。該当学年で習う漢字をすべて使った音読教材に、年間通して取り組んできた成果であると考えられる。 ○ローマ字の表記について習得ができています。第2学年時から、一人一台端末を活用し、継続してローマ字入力に取り組んできた成果であると考えられる。 ●漢字を正しく書く問題への無回答率が市よりも多い。	・今後も、年間を通して、音読教材を活用し、該当学年の漢字の読字力の向上に努めていく。 ・漢字の書きについては、漢字のへんやつくりといった形に着目し、同じ音を表す部分や、同じような意味を表す部分を見つける活動を通して、そこで得た知識を今後の書字に生かしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●国語辞典の使い方を理解し、例文で用いられた言葉の意味として適した語を選ぶことに課題が見られる。	・国語辞典を使う経験が日常的に少ないので、国語辞典の使用頻度を増やすとともに、意味調べをした語句を使って文づくりを行う活動を取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●漢字が、へんやつくりなどから構成されていることの理解が不十分である。	・漢字をなぜそのつくりになったか、なぜそのへんなのかなど、漢字の成り立ちについて考える経験が少ないので、国語辞典を使用する際に部首について学ぶ活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○自分の考えを理由を挙げながらまとめることができている。第2・3学年にかけて、毎朝、学級全員でテーマを決めて、話し合う活動を積み重ねてきた成果であると考えられる。	・高学年に向け、立場を決めた話し合いやインタビューなど多様な話し合い活動を経験させ、事実と感想、意見とを区別しながら話す力を育てるとともに、話し手の考えと比較しながら、整理して聞く力を育てていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○自分の考えを明確にして文章を書くことができている。思考ツールを活用し、自分の考えを整理してから文章を書く活動に取り組んだ成果であると考えられる。 ●段落の役割についての理解が不十分であり、指定された2段落構成の文章を書くことに課題がある。	・高学年に向け、より自分の考えが伝わるように、事実と感想、意見とを区別して筋道の通った文章を書かせるとともに、引用や図表、グラフを用いた書き表し方についても指導していく。 ・書く活動を行う際には、段落構成を指定し書かせることで、段落の役割を理解させるとともに、事実と意見を区別して書けるように指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○叙述を基に内容を捉えることは8割の児童ができています。作品全体の構成や段落相互の大きな関係性を考えながら読む活動に力を入れてきたことで、作品の典型構造を理解・把握できている。 ●物語の登場人物の気持ちや場面の様子について、叙述を基に捉えたり、感じたこと分かったことを共有したりすることが苦手である。	・作品全体の構成や段落相互の関係性を考えながら読むことができているので、その理解に基づいて、感想や考えを伝える共有活動に力を入れていく。また、読書や読み聞かせ活動後に、共有する時間を設ける。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.4	58.9	59.2
	図形	62.2	53.0	53.7
	測定	40.0	33.1	32.6
	データの活用	25.0	24.4	24.6
観点	知識・技能	59.7	54.3	54.7
	思考・判断・表現	44.2	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

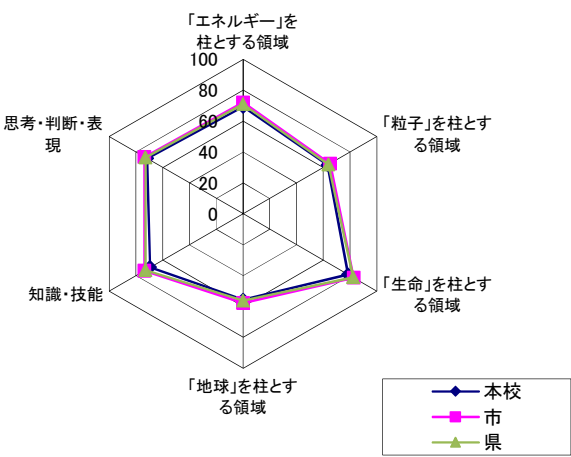
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より高い。 ○四則計算の手順を正しく理解しているため、小数や分数の計算においても、技能が定着している。朝の活動の時間にモジュール学習を計画的に取り入れ、日常的に計算問題に数多く取り組んでいる成果であると考えられる。 ○数量関係を理解しており、□を使った式や図においても正解を選ぶことができています。 ●万の単位や大きな数の表し方を理解し、正しいものについて選ぶことに課題がある。	・四則計算の技能が、日常生活に生かすことができるよう、統計資料等を活用し、社会科の学習と関連を図りながら指導を継続していく。 ・1万という数の大きさについて実感的に捉えられるように、5000と5000を合わせた数や100の100倍など、多面的な見方で数を表すことができるよう繰り返し指導していく。
図形	平均正答率は、市の平均より高い。 ○半径と直径を理解し、球の性質を利用し長さを求めることができています。ボールを観察したり、円を作図したりして、得られた気付きをもとに学習を展開した成果であると考えられる。 ○二等辺三角形の性質を理解している。作図後に児童に手順を問うたり、説明させたりするような質問を投げかけ、1対1でやり取りしてきたことで、理解が深まったと考えられる。	・引き続き図形に関わる数学的活動を通して、図形を構成する要素に着目し、さらにその観点を他の図形にも用いようとする態度を育てていく。
測定	平均正答率は、市の平均より高い。 ○時間と時刻を理解し、前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を求めることができています。時間の経過を捉えて考えられるように、模型の時計や数直線上の目盛りを活用したことで理解が深まったと考えられる。 ○重さの単位を理解し、合計の重さの大きさを正しく比較することができています。学級内で重さの見当を競い合う課題を設定するなど活動を工夫したことで、測定の技能が高まったと考えられる。	・量感を養うために、計器を使わずにある量の大きさの見当をつけたりする活動を引き続き取り入れていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ●2つの棒グラフを比べ、1目盛りの大きさに注意しながら読み取ることに課題が見られる。	・算数科だけでなく、社会科等の他教科と関連を図りながら、より多くのグラフを読み取れるようにする。その際に、目盛りの大きさに着目させたり、目盛りの大きさの異なるグラフを比較し、考えさせたりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	69.3	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	63.3	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	78.5	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	55.6	57.7	56.2
観点	知識・技能	69.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	71.7	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○磁石の性質を理解し、その性質がどのように利用されているのかを推測することができている。磁石の性質を利用したおもちゃを作り、その性質を説明する課題を設定し、児童がどの性質を利用するか考えながら学習に取り組んだ成果であると考えられる。 ●風やゴムの働きについての理解が不十分である。	・実験の結果から導き出される考察を全体で共有し、授業で学ぶ科学的な言葉とともに関連付けて考えさせる。 ・まとめの際に、自分の考えを説明する活動の充実を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●ものの形を変えても重さは変わらないことについての理解が不十分である。 ●体積が同じでも、ものの種類によって重さが違うことについての理解が不十分である。	・体積と重さの関係を確認し、具体物を提示して復習しながら、知識の定着を図っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○植物の体のつくりや育ち方について、よく理解できている。 ●昆虫の体のつくりや種類による育ち方の違いについての理解に課題がある。	・映像資料などを活用して昆虫の体のつくりや育ち方を復習したり、身近な自然の観察を通年通して行ったりして、生物への理解を深めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○かげのできる向きを太陽との位置関係から理解することができている。かげの性質を利用した遊びを紹介する課題を設定し、児童がどの性質を利用するか考えながら学習に取り組むことができたことによる成果であると考えられる。 ●太陽の動く向きについての理解が不十分である。	・4年生で学習する「天気の変化」「月と星」の学習と関連付けて、授業の中で再度取り上げ、太陽とかげの位置変化を方位で捉えることを復習していく。

宇都宮市立上河内西小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と回答した児童の割合は93.3%で、市の平均を大きく上回っている。本校の昨年度までの学校課題でもあった話し合い活動の充実の成果が表れている。

○「自分には、よいところがあると思う」という設問の肯定回答が100%である。一人一人が活躍できる場や帰りの会で友達を称賛する場を設けている成果と言える。これからは教師から積極的に声をかけたり、児童同士で褒め合える場を設定したりし、自己肯定感を高めていきたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」という質問に対して肯定的に回答している児童の割合は、93.4%で、市の平均を大きく上回っている。このことから、日常的に自力解決をしようとする姿勢が見られる。授業での調べ学習やドリル学習などで使用することが日常化していることが、肯定的な回答として表れている。今後は、情報技術の活用において、自分で正しく判断し、責任をもって行動する力の育成をしていく。

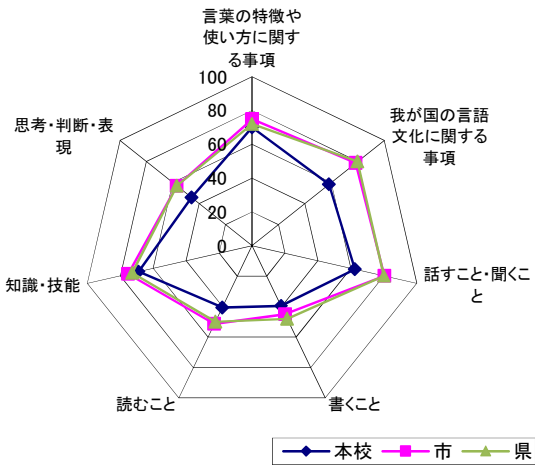
●「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」という設問の肯定回答が市の平均を下回っている。授業の中で振り返りを書く時間は設けているが、それを互いに伝えたり、今日分かったことを発表させたりといった活動が行うことが不十分であったため、授業の中に取り入れていく。

●平日の1日当たり2時間以上テレビゲームをする児童が33.4%であり、その中でも3時間以上と回答した児童が6.7%であった。家庭での時間の使い方について、家庭と連携をして支援していく。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.0	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	58.3	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	62.5	80.4	80.0
	書くこと	39.6	45.1	48.0
	読むこと	40.6	51.3	50.0
観点	知識・技能	68.9	75.2	72.8
	思考・判断・表現	45.8	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

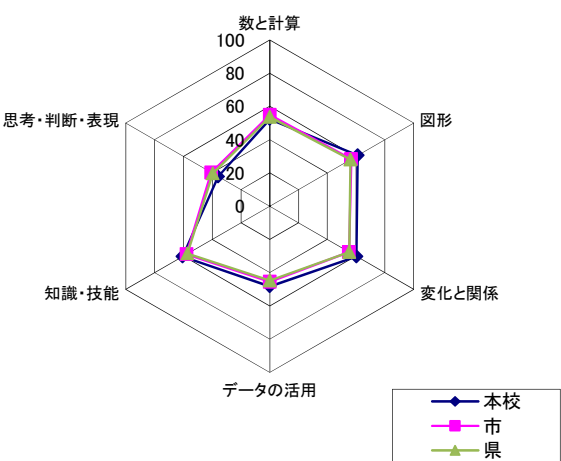
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字を正しく読むことができる。日頃から読書を推進しているためと考えられる。 ●漢字を正しく書くことに課題が見られる。特に送り仮名の理解が不十分である。 ●熟語の漢字の組み合わせの理解が不十分である。	・作文や日記を書く活動の中で、既習の漢字を積極的に活用するよう指導していく。 ・漢字の指導に際しては、正しく書き取るとともに、送り仮名にも注意していくよう、改めて確認していく。 ・熟語の意味を考えるときに、組み合わせを手掛かりにして言葉の意味を説明する学習を取り入れていく。
情報の扱い方にに関する事項	該当する問題がありません。	該当する問題がありません。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●慣用句の意味の正しい理解と表現する力が不十分である。	・授業だけでなく、普段から慣用句や四字熟語を話題にし、伝統的な言語文化に関心をもたせるよう努める。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○話した内容の中心を聞き取ることができている。話を聞く態度を継続して指導してきた成果と考えられる。 ●意見の後に、それに対する理由を話すといった、話し手の工夫を捉えることに課題が見られる。 ●司会者の立場に立ち、参加者の話をまとめる力が不十分である。	・伝わりやすい話し方の工夫を確認し、授業においても意識して実践させるようにする。 ・だれもが司会者の立場を経験させ、参加者の意見をまとめていく力を付けさせる。 ・話し合いにおいては、意見の共通点や相違点に着目しながら進めていくよう指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○アンケート結果を読み、指定された長さや2段落構成で文章を書くことができる。基本的な文章構成を踏まえた作文指導を定期的実施した成果と考えられる。 ●内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことに課題が見られる。	・意見文において、事実と意見の2段落構成の書き方を改めて確認し、定期的に意見文を書く活動を取り入れ、定着を目指す。 ・書くことが苦手な児童も多いため、実態に応じて文字数を調整するなど、文章を書くことへの抵抗感をなくすように努める。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができている。これまで、感想の交流を継続して行ってきたためと考えられる。 ●物語文、説明文ともに叙述を基に内容を捉えることに課題が見られる。特に、場面の様子を読み取ること、段落相互の関係を捉えることに課題が見られる。	・物語文では、叙述を基にした場面の様子の正確な読み取りや、情景に関する言葉に着目させ、その言葉のもつ意味や意図を確認しながら指導していく。 ・説明文では、文章が「始め・中・終わり」に分けられることや、文章の中から問いと答えを見つけることで、段落同士が結び付くことを押さえ、文章全体の段落構成を理解できるよう指導していく。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	52.4	54.9	53.7
	図形	61.1	56.6	56.1
	変化と関係	60.4	55.1	55.2
	データの活用	48.3	45.5	44.8
観点	知識・技能	60.6	57.8	57.2
	思考・判断・表現	35.7	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

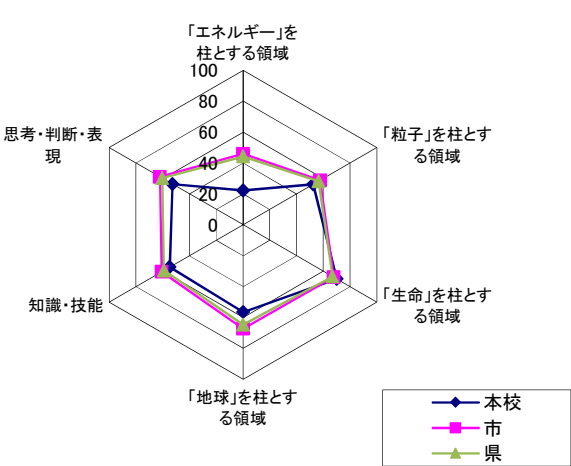
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○四則混合の式の計算の順序を理解して、問題を解くための正しい式を選ぶことができています。計算ドリルやAIドリルを活用して、計算問題を多く解いてきた成果であると考えられる。 ○小数の仕組みを理解して、10倍や100倍等の位の移動について、正しい解答を選ぶことができています。位の移動に関して、位取り表や矢印等を活用して、視覚的に仕組みを確認をした成果であると考えられる。 ●除法の性質について理解し、計算の工夫について説明することに課題が見られる。	・ドリル等を活用し、多様な計算問題を解くことで、計算のきまりについての理解をさらに深められるようにする。 ・自分の考えを説明することに課題が見られるため、順序立てて自分の考えを説明する機会を多く設定する。また、グループ活動を取り入れて、課題に対して協働的に取り組めるようにすることで、自分の考えを表現する機会を増やす。
図形	平均正答率は、市の平均より高い。 ○平行四辺形の作図について、正しく作図をすることができています。デジタル教材を用いて模範を示しながら、丁寧に作図指導を行った成果であると考えられる。 ●立方体の展開図の理解について、課題が見られる。	・今後もデジタル教材の適切かつ効果的な利用について研究し、授業に活用していく。 ・立体に関しては、デジタル教材に限らず、立体模型に実際に触れたり、作成したりすることで、空間認識力の向上を図っていく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より高い。 ○伴って変わる2つの数量の関係を正しく理解し、式に表すことができています。例題を多く解くことで、問題の解き方が定着したと考えられる。 ●伴って変わる2つの数量について、どのように変化しているかを読み取ることに課題が見られる児童がいる。	・日常生活の中から比例の関係になっているものを見つける活動を行うなどして、学習を日常生活と結び付けることで、さらに2つの数量の関係についての理解が深まるようにする。 ・定着には個人差があるため、机間指導や、必要に応じて個別指導を取り入れるなどして、一人一人の力の定着を図っていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より高い。 ○折れ線グラフから、必要なことを読み取り、正しい解答を選択することができています。算数に限らず、社会や理科等でも折れ線グラフについての読み取りを行うなど、教科等を横断して学習を進めている成果であると考えられる。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取ることに課題が見られる。	・教科等横断的な視点を大切にし、算数での学びを他の教科でも活用することで、さらに内容の定着を図っていく。 ・複合グラフの場合、必要な情報の在処が分かりにくくなるため、同様の問題を解くことで、複合グラフを読み取る力を育てていく。また、グラフから分かることを、グループ等で伝え合ったり、問題を出し合ったりするなどして、多様な読み取りができる機会を設定していく。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	22.2	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	52.5	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.0	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	56.5	67.2	64.6
観点	知識・技能	54.8	60.8	59.2
	思考・判断・表現	52.6	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●電流の流れ方に関する理解が不十分である。特に、電池のつなぎ方とその名称、検流計の仕組みについて課題が見られる。	・実験を行う上で、器具の名称や使い方を丁寧に確認することで理解を深められるようにする。 ・電流の流れなど目視しにくいものは、図解などで電流の流れをイメージしやすくしたり、電流計などを使い数値で確認したりすることで、変化について考えやすくする。 ・実験の結果から導き出される考察を全体で共有し、授業で学ぶ科学的な言葉とともに関連付けて考えさせる。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「とじこめた空気や水」の学習では、生活の中での事象に該当するものを思い起こさせながら、閉じ込めた空気と水の性質の実験を行ったことで十分に理解が深まったと考えられる。 ●温度による空気や水、金属の体積の変化についての理解が不十分である。	・金属や空気の温まり方に関する理解を深めるため、実験の結果から生活の中での事象に該当するものを思い起こさせるようにする。 ・実験によって導き出される結果から、どのようなことが言えるか考察を自分でしっかり考え、話し合うことで、見方や考え方を広められるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○季節ごとの動植物の様子やヒョウタンの成長の様子について、実際にヒョウタンを育てたり、季節ごとに校庭の植物の観察を行ったりしてきたことが確実な理解につながったと考えられる。 ●腕の動きに伴う筋肉の収縮と弛緩について課題が見られる。	・主体的に学習に取り組めるよう、生活の中の疑問を導入で活用したり、意欲を高めるような工夫をしたりする。 ・自分の体に直接触れたり、動かしたりすることで、興味・関心を高められるようにする。骨や筋肉など見えない部分については、ICTを活用したり、模型などの資料を使ったりして確認し、人間の体の不思議さ・神秘性に気付くことができるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○月の動き方について理解している。月の位置の変化や時間の経過に着目し、それらを関連付けた学習を行った成果であると考えられる。 ●水の流れと地面の傾き、水の変化についての理解が不十分である。 ●星の色や並び方、動き方についての理解が不十分である。	・理科の実験・観察において、結果の考察を記述する習慣を付けていく。 ・既習の内容やこれまでの生活経験と関連付けたり、星の観察を家庭学習に取り入れたりすることで、学習した知識を理解につなげられるようにする。

宇都宮市立上河内西小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合は100%であった。児童とともに学習課題を設定したり、毎時間の振り返りを書く活動を積み重ねてきたりしたことで、主体的に学習に取り組む態度が育ってきていると考えられる。

●「今後は今年度本校において力を入れている『自己調整学習』を意識した授業展開を図り、児童が学びのサイクルの中で自ら進んで学習に取り組めるようにしていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童は83.3%、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」と回答した児童は100%であった。一人一人が活躍できる場や帰りの会で友達を称賛する場を設けている成果と言える。これからも教師から積極的に声を掛けたり、児童同士で褒め合える場を設定したりし、自己肯定感を高めていきたい。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」と回答した児童の割合は83.3%であった。学校や家庭において、一人一台端末を活用した学習を進めている成果が表れている。今後とも情報技術の利用において、自ら正しく判断し、責任をもって行動する力の育成など、デジタルシティズンシップ教育を進めていく。

●「クラスは発言しやすいふん囲気である」と回答した児童の割合は58.4%であった。児童同士の関係をよく観察しながら、一人一人がそのままの自分でいられるような安心安全な学級づくりを行っていく。

●テレビやゲーム、スマートフォン等を長時間使っている児童が多く、3時間以上使用している児童が半数もいる。児童に適切なメディアとの付き合い方について考えさせるとともに、学年だよりや学年部会等を通して家庭に協力を仰いでいく。

宇都宮市立上河内西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も、年度初めの懇談会で、家庭教育の重要性を話し、家庭学習強化週間を年2回実施することの協力を依頼している。	家庭学習については、4・5年生ともに9割の児童が学年でめやすとしている時間よりも長く実施できている。これは、市・国の平均よりも高い。「自分で計画を立てて取り組んでいるか」については、7割の児童が肯定的な回答をしている。家庭での学習習慣が定着してきているので、さらに学びを自分のものとして捉えられるような学習方法を身に付けさせていく。
児童の自己調整力を高めるための授業改善	児童が「見通し・学習・振り返り」の学びのサイクルを回し、自ら学びに向かうことができるように、児童にとって「わかる」「おもしろい」と感じる授業を展開するとともに、児童のメタ認知を促す自己評価と学びを価値付ける声掛けを行っている。	「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と8割の児童が回答している。また、勉強に対して、「おもしろい、楽しい」思ったり、「不思議だな、なぜだろう」と感じたりしている児童は、8割以上と、市や県と同等もしくは上回っている。このことから、学習に対して、前向きな姿勢をもっていることと次の学習につなげようと主体的に取り組むことができていることが分かる。
授業における話し合い活動の充実	授業の中に意識的に話し合いの場を設け、互いの考えを伝え合うだけにとどまらず、友達の意見と自分の意見を比べて聞いて、考えを深めたり修正したりして練り合いながら話し合いが行えるよう指導している。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」と回答している児童は4年生で9割、5年生で8割であった。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」については4年生で8割、5年生で9割であった。このことから、友達と対話し、多角的な視点で考えることに価値を見出していることが分かる。さらに、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」と回答している児童は、市や県よりも上回っており、取組の成果が表れてきている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「読むこと」の領域で市や県より低い。物語の登場人物の気持ちや場面の様子について、叙述を基に捉えたり、感じたこと分かったことを共有したりすることが苦手である。	気持ちを表す語彙を増やすとともに、心情を読み取るためのいくつかのステップを取り入れる。	様々な気持ちを表す言葉をカードやリストに整理し、物語を読む際にどの言葉が登場人物の気持ちに当てはまるか考えることで、適切な感情表現を選べるようにする。また、登場人物の気持ちになって心情日記を書いたり、ロールプレイを取り入れることで、叙述を捉えられるようにしていく。